



令和6年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立
みどりの南小学校
第50号
発行日 R7. 3. 10

授業の改善に向けて全教員で学ぶ 校内授業研修会

2月13日(木)、初めての「校内授業研修会」を実施しました。この日、講師に東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻教職開発講座 准教授 一柳 智紀 先生をお招きし、ご指導をいただきました。一柳先生は小中学校をフィールドとしながら、探究的で協働的な子供の学びを組織するための教師の在り方について研究をされています。文科省が進める「主体的・対話的で深い学び」を目指す私たちの授業づくりについてご指導いただくためをお願いしたところ、快諾いただき、本研修が実現しました。

先生には、3・4校時に26学級の授業観察、5校時に全教員とともに5年1組の授業観察、そして全教員によるグループ協議の後、先生からご講演いただきました。

これまで、全教員が同じ授業を見て、子供の学びの姿(事実)から、授業はどうあるべきか、自分はどうのように授業を変えていくべきかを協議することはありませんでした。さらに、今回は一柳先生から、私たちがこれまで気付かなかった様々な視点を示してもらうことで、大きな学びがありました。

講演では、子供たちが学んでいる姿を数多く示してもらい、それを根拠にして、私たち教員はどのように授業をデザインすれば、子供たちが主体的に学び、結果的に学力の向上につながるのか、ご助言をいただきました。これは、明治時代から続く、画一的な一斉授業や詰め込み型の授業などの、先生が教えるスタイルからの脱却であり、文科省が進める「令和の日本型学校教育」(全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ること)への転換です。そのために私たちは、このような授業へ改善していくための研修を継続することで、子供たちに対して効果的な教育活動(授業)を行い、一人残らず幸せになれる学校を目指していきたいと考えています。



令和6年度 学校教育に関するアンケート(保護者)自由記述より③

【ご意見・ご感想について】

◆地域部活動について(あまり実態が見えない、等)

部活動の地域移行は、昨今の学校部活動の課題を解消すべく、国や県が推進しており、市もガイドラインをつくって取り組んでいます。しかしながら、地域移行は良さだけでなく、課題もあるのが現状です。不安もあると思いますので、その状況(実態)を把握していただき、意見や要望を伝えていく必要があると思われます。今後も地域クラブ団体、保護者、行政、中学校で考えていくことが大切です。ご意見、質問等は、みどりの南中学校、みどりのSCC(株式会社エンボス企画)へお問合せ下さい。

[参考] NHK「平日も!部活動“完全”地域移行した中学校教員の働き方は 茨城・つくば みどりの学園義務教育学校」

<https://www.nhk.or.jp/mito/lreport/article/002/61/>

◆登校班について(自由登校の選択の意図)

現在、学校支援組織(すいハピ)事務局にお世話になり、登校班の準備が進められています。登校については、アンケート調査結果から登校班での登校が基本となり、自由登校の選択を示してはいません。ただし、個人的な理由もあって強制はできないことから、登校班を希望しない場合もあります。個別登校の場合は保護者送迎が多いと思いますが、その場合は安全に登校できるようご配慮をお願いいたします。

また、中・高学年の児童がおらず、低学年だけの登校になる班もあり、心配とのご意見もあります。分離した新設校のため、低学年ほど児童数が多い状況があります。中・高学年の児童が小さい子供たちを気遣う大変さもありますが、安全に登校できるよう何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

